

整理番号:9850408

発送番号:258649 発送日:平成17年 7月19日

1

## 特許査定



特許出願の番号 平成11年 特許願 第191023号

起案日 平成17年 7月11日

特許庁審査官 安島 智也 9741 5E00

発明の名称 電子機器および入力装置

特許出願人 富士通株式会社

代理人 伊東 忠彦

この出願については、平成17年 3月24日付け拒絶理由通知書に記載した理由Bによって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

## 備考

[請求項1乃至5に対して]

提出期限  
8/18(木)

## &lt;請求項1及び2について&gt;

出願人は意見書において、本願発明（請求項1及び2にかかる発明）と引用文献1記載の発明との相違点として、次の点を主張している。

（相違点）本願発明は、支持部材が本体に収容されているのに対して、引用文献1記載の発明は、その構成を有していない点。

以下、この相違点について検討する。

入力装置を支持する支持部材を本体に収容可能とすることは、たとえば実願昭62-132380号（実開昭64-039518号）のマイクロフィルムにみられるように、周知慣用技術である。よって、引用文献1において、キーボード支持のために、本体に収容可能に構成された支持部材を用いることは、当業者が容易に想到しうることと認められる。

なお、補正後の請求項2に記載の構成については、上記拒絶理由通知において旧請求項5について言及したとおりである。

したがって、出願人の意見は採用できない。

## &lt;請求項3乃至5について&gt;

出願人は意見書において、本願発明（請求項3乃至5にかかる発明）と引用文献2記載の発明との相違点として、次の点を主張している。

（相違点）本願発明は、入力装置が爪状の係合部材を備え、該爪状の係合部材が、本体と表示装置の間に備えた孔状の係合部材と係合するのに対して、引用文献

2記載の発明は、その構成を有していない点。

以下、この相違点について検討する。

爪状の係合部材及び孔状の係合部材による係合は、引例を提示するまでもなく、周知慣用技術である。また、係合する二つの部材のいずれの側の係合部材を爪状にし、いずれの側の係合部材を孔状とするかは、必要に応じて当業者が適宜選択しうる設計的事項である。したがって、引用文献2において、入力装置側の係合部材を爪状とし、本体と表示装置の間の係合部材を孔状として係合部材を構成することは、当業者が容易に想到しうることと認められる。

なお、補正後の請求項4に記載の構成については、上記拒絶理由通知において旧請求項5について言及したとおりである。

したがって、出願人の意見は採用できない。

---

なお、次の点から、この出願は37条違反であると認められる。

請求項1及び2にかかる発明と請求項3乃至5にかかる発明に共通する課題は、「入力装置を使用しないときに机上のスペースを有効に活用するために、入力装置を本体に確実かつ強固に収容することのできる電子機器および入力装置を提供すること（段落【0009】参照）」であるが、この課題は本願の出願前にすでに解決されており（引用文献1参照）、本願の出願時に未解決の課題でないから、これらの発明は特許法第37条第1号の関係を満たさない。

また、これらの発明に共通する解決しようとする課題に対応した発明の特定事項である「表示装置が本体との係合箇所を中心として回動可能に設けられるとともに、入力装置が該本体と分離可能に接続される電子機器であって、該入力装置を該表示装置と該本体との間に収容する構成としたことを特徴とする電子機器」は、引用文献1乃至3にみられるように、周知慣用技術であるから、解決しようとする課題に対応した新規な発明特定事項である主要部が存在せず、これらの発明は特許法第37条第2号の関係を満たさない。

さらに、これらの発明は、特許法第37条第3号、第4号、第5号に規定する他のいずれの関係も満たさない

---

この査定に不服があるときは、この査定の謄本の送達があった日から30日以内（在外者にあっては、90日以内）に、特許庁長官に対して、審判を請求することができます（特許法第121条第1項）。

（行政事件訴訟法第46条第2項に基づく教示）

この査定に対しては、この査定についての審判請求に対する審決に対してのみ取消訴訟を提起することができます（特許法第178条第6項）。

---

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成17年 7月12日 経済産業事務官 平瀬 恵美子

# 公開実用 昭和64- 39518

④日本国特許庁 (JP)

④実用新案出願公開

④公開実用新案公報 (U)

昭64- 39518

④Int.CI.

G 06 F 1/00

差別記号

312

厅内整理番号

V-7459-5B

④公開 昭和64年(1989)3月9日

審査請求 未請求 (全頁)

④考案の名称 キーボード収納装置

④実 願 昭62- 132380

④出 願 昭62(1987)8月31日

④考案者 中村 光敏 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

④出願人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

## 明細書

## 1. 考案の名称

キーボード収納装置

## 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 演算処理部と少なくとも記憶部とを有するコンピュータ装置と、該コンピュータ装置に接続されたキーボード部とで構成されたものにおいて、前記コンピュータ装置の前面の左右下端に開口部を設け、この開口部に先端と上方に向けたし字状の保持部材を出没自在に挿設したことを特徴とするキーボード収納装置。

(2) 保持部材の一側に少なくとも1個の係止用凹部と、該凹部に対応する突部をコンピュータ装置の対応する所に設けたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載のキーボード収納装置。

## 3. 考案の詳細な説明

## 「産業上の利用分野」

本考案は、パーソナルコンピュータやホストコンピュータを有する端末機器において、機器の未

使用時におけるキーボード装置の収納に関する。

「従来の技術」

従来、パーソナルコンピュータやホストコンピュータを有する端末機器等において、キーボード部は本体とは別にケーブルにて本体に接続された状態で使用されていた。そして、一般には、これらキーボード部はそれを収納する特別な方策がとられていないため、もし、ほかの作業等で、キーボード部が邪魔になれば、機器本体の上に置くか、もしくは、機器本体の横に立掛ける等で処理されていた。しかし、機器本体の上に置く、あるいは立掛ける方法も、倒れる、落ちる等の事故があり、キーボード部を破損することも起こり得るものであり、改善が望まれていた。

「考案が解決しようとする問題点」

従来における、上記したような、コンピュータの不使用時に効果的にキーボード部を安全に、収納し得なかったということから生ずる問題を解決するもので、簡単な構成にて、確実にキーボード部を収納しうるものを提供する。

### 「問題点を解決するための手段」

本考案は、上記の問題点を解決するため、演算処理部と少なくとも記憶部とを有するコンピュータ装置と、該コンピュータ装置に接続されたキーボード部とで構成されたものにおいて、前記コンピュータ装置の前面の左右下端に開口部を設け、この開口部に先端と上方に向けたし字状の保持部材を出没自在に挿設したキーボードの収納装置を提供するものである。

### 「実施例」

以下、図面に基づいて本考案によるキーボード収納装置を説明する。第1図はコンピュータ全体の斜視図を示し、第2図は本考案によるキーボード収納装置の斜視図、第3図は同装置にてキーボード部を収納した状態を示す斜視図、第4図は同装置の要部拡大図である。図において、1はパーソナルコンピュータ等の本体を収容する箱体で、パネル部2を有する。この箱体1よりリード線を介しキーボード部4が接続され使用される。3はキーボード収納部で、必要に応じ、第2図に示す

## 公開実用 昭和64-39518

如く、矢印の方向に引出され、第3図に示す如く、このキーボード収納部3の上にキーボード部4を置くことにより、キーボード部4を本体1に収納することができる。

これらキーボード収納部3は先端8を上に向けたし字状の部材でなり、パネル2の下端左右に設けた開口5に出没自在に挿設される。そして、これらキーボード収納部3の一端（先端8の反対側の端部）は、本体1内に位置し、キーボード収納部3を外に飛出さないように作用するストップ部材9が設けられている。また、キーボード収納部3の適所に凹部6が設けられ、本体1側には、この凹部6に対応する凸部（図示せず）がスプリング部材の付勢にて設けられ、キーボード収納部3が本体1内に挿入された状態にて容易に外に出ることを阻止する係止のために作用する。

なお、7はゴム等の弾性を有する滑り止めおよびクッション部材である。

### 「効果」

以上に説明したように、本考案によるキーボー

ド収納装置は、簡単な装置にて、不使用時のキーボードを確実に機器本体側に収納しうるものであり、また、キーボード部を立てた状態で収納できることからキーボード上に埃等の付着を防止し得るものであり、さらには、卓上を有效地に利用し得る等その利用価値は大である。

#### 4. 図面の簡単な説明

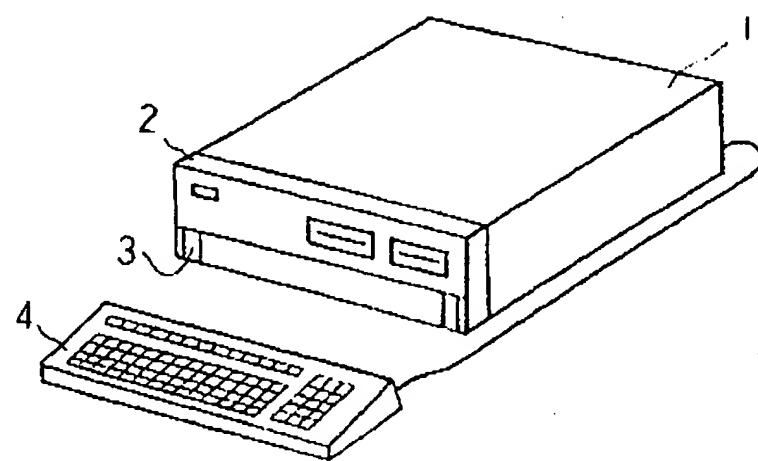
第1図は本考案によるキーボード収納装置の斜視図、第2図は同キーボード収納装置の収納前の状態を示す斜視図、第3図は同キーボード部を収納した状態を示す斜視図、第4図は同キーボード収納装置の収納部の要部拡大斜視図である。

図中、1はコンピュータの本体、2はパネル部、3はキーボード収納部、4はキーボード部である。

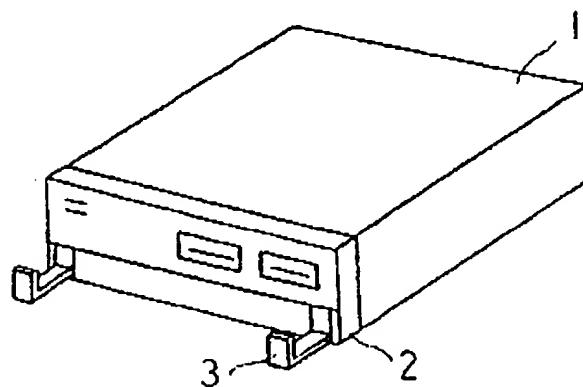
実用新案登録出願人 株式会社富士通ゼネラル

# 公開実用 昭和64- 39518

第1図



第2図



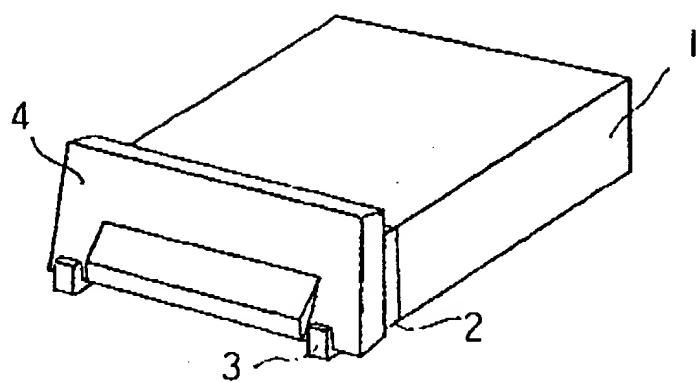
238

実用新案登録出願人

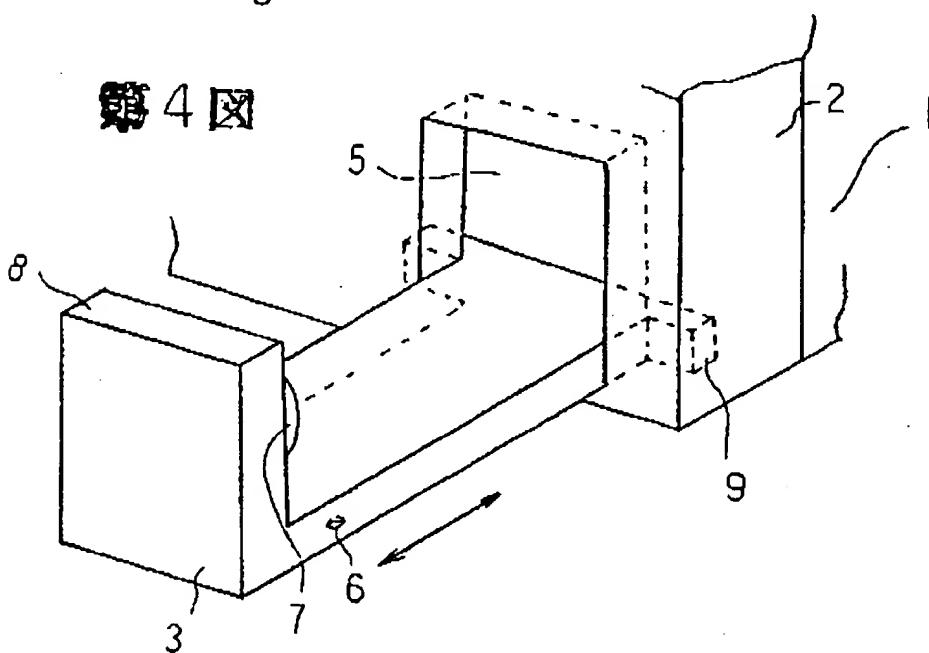
株式会社富士通ゼネラル

寒開昭 64-39518

第3回



第4回



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**